

腎臓センター 外科部門（腎臓外科）

1. スタッフ（平成26年4月1日現在）

科 長（教 授） 八木澤 隆
 外来医長（病院講師） 南木 浩二
 病棟医長（病院助教） 木村 貴明
 シニアレジデント 1名
 医 員（講 師） 佐久間康成
 （学内講師） 藤原 岳人
 （助 教） 貫井 昭徳

2. 診療科の特徴

- 腎臓センターの外來部門を担当している
- 腎臓センターでは内科部門、外科部門の連携により、腎炎から透析、腎移植に到るまでの一貫した総合的な腎臓病治療を行っている。こうしたセンターはわが国において稀少である。
- 腎移植、腎不全外科（腎不全の診療に必要な外科治療や腎不全に伴う合併症の外科的治療、透析のためのバスキュラーアクセス造設や腎性副甲状腺機能亢進症に対する副甲状腺摘出術など）、透析治療に伴う後天性腎嚢胞や透析腎癌に対する外科治療、腎血管性高血圧、腎動脈狭窄、動脈瘤等の血管病変に対する腎血管外科手術などを診療の主な対象としている。
- 腎移植は生体腎移植、献腎移植に取り組んでいる。
 生体腎移植ではABO血液型不適合移植の他、SLEや糖尿病などを原疾患とする腎不全例など特殊例にも適応を拡げている。また透析導入前の移植も積極的に進めている。進免疫抑制薬や体外循環による血液浄化療法を駆使した治療等を移植前後に応用している。
- 低侵襲手技（後腹膜腔鏡下手術）の開発に積極的に取り組み、腎尿路手術にこの手技を導入している。
 腎移植における生体ドナー腎摘出術にもこれを応用している。
- 腎臓センター発足後、紹介患者を中心に診療患者数は着実に増加している。手術件数をみると腎不全外科領域ではバスキュラーアクセス関連が年間200件を越え、その多くがトラブルの紹介例、人工血管移植例となっている。またCAPD関連手術も20件を超えている。
 腎移植は年間20～30件を施行し、国内でも有数の施設として発展しつつある。また外来治療を継続している腎移植患者数は約250名を越えている。
 外来では、その他の腎臓疾患、副甲状腺手術関連の紹介患者が多い。

7) 診療は日本泌尿器科学会専門医、指導医、日本透析医学会専門医、指導医、日本腎臓学会専門医、指導医、日本内視鏡外科学会技術認定医（泌尿器腹腔鏡）、腎移植専門医（日本臨床腎移植学会）、移植認定医、日本内分泌外科専門医によって行っている。

・専門医、指導医

| | |
|--|---|
| 日本泌尿器科学会 専門医 | 八木澤 隆 貫井 昭徳 木村 貴明 |
| 日本泌尿器科学会 指導医 | 八木澤 隆 貫井 昭徳 |
| 日本外科学会 専門医 | 南木 浩二 佐久間康成 藤原 岳人 |
| 日本外科学会 指導医 | 南木 浩二 |
| 日本腎臓学会 専門医 | 八木澤 隆 木村 貴明 |
| 日本腎臓学会 指導医 | 八木澤 隆 |
| 日本透析医学会 認定専門医 | 八木澤 隆 南木 浩二 木村 貴明 |
| 日本透析医学会 指導医 | 八木澤 隆 南木 浩二 |
| 日本内視鏡外科学会 技術認定医（泌尿器腹腔鏡） 腎移植認定医 （日本臨床腎移植学会） | 八木澤 隆 南木 浩二 佐久間康成 藤原 岳人 木村 貴明 |
| 移植認定医（日本移植学会） | 八木澤 隆 南木 浩二 佐久間康成 |
| 日本内分泌外科学会 専門医 | 藤原 岳人 |
| 日本消化器外科学会 認定医 臨床研修指導医 | 木村 貴明 |
| American Urological Association Member （米国泌尿器科学会） | 八木澤 隆 |
| European Association of Urology Member （欧州泌尿器科学会） | 八木澤 隆 |
| Societe Internationale d'Urologie Member （国際泌尿器科学会） | 八木澤 隆 |

- The Endourological Society Member
(国際エンドウロジー学会) 八木澤 隆
- American Society of Transplantation Member
(米国移植学会) 八木澤 隆
- European Society for Organ Transplantation Member
(欧州臓器移植学会) 八木澤 隆
- The Transplantation Society Member
(国際移植学会) 八木澤 隆
南木 浩二
- European Renal Association-European Dialysis and
Transplant Association (ERA-EDTA) Member
(欧州透析、移植学会) 八木澤 隆

3. 診療実績・クリニカルインディケータ

1) 新来患者数・再来患者数・紹介率

| | |
|-------|-------|
| 新来患者数 | 113人 |
| 再来患者数 | 3057人 |
| 紹介率 | 56.8% |

2) 入院患者数(病名別)

| 病名 | 患者数 |
|-----------------|-----|
| 生体腎移植レシピエント | 24 |
| 献腎移植レシピエント | 2 |
| 腎移植ドナー | 24 |
| 腎移植後(感染症、拒絶反応等) | 26 |
| 原発性副甲状腺機能亢進症 | 2 |
| 腎原性副甲状腺機能亢進症 | 7 |
| 副腎腫瘍 | 2 |
| 腎腫瘍 | 1 |
| 後腹膜腫瘍 | 1 |
| 感染性多発性のう胞腎 | 1 |
| 合計 | 90 |

3-1) 手術症例病名別件数

| 病名 | 人数 |
|-----------------------|-----|
| 慢性腎不全、腎移植 | 26 |
| 生体腎移植ドナー | 24 |
| 腎腫瘍 | 1 |
| 腎性副甲状腺機能亢進症 | 7 |
| 原発性副甲状腺機能亢進症 | 2 |
| 慢性腎不全(透析導入、アクセストラブル等) | 196 |
| CAPDカテーテル関連 | 31 |
| 副腎腫瘍 | 2 |
| 感染性多発性のう胞腎 | 1 |
| 後腹膜腫瘍 | 1 |
| 鼠径ヘルニア | 1 |
| 合計 | 292 |

3-2) 手術術式別件数、術後合併症件数

| | 症例数 |
|--------------------|-----|
| 生体腎移植術 | 24 |
| 献腎移植 | 2 |
| 鏡視下ドナー腎摘出術 | 24 |
| 開放腎摘出術 | 1 |
| 鏡視下腎部分切除術 | 1 |
| 後腹膜腫瘍切除術 | 1 |
| 副甲状腺全摘除術および部分自家移植術 | 7 |
| 副甲状腺腫摘除術 | 2 |
| 鏡視下副腎摘除術 | 2 |
| 試験開腹 | 1 |
| 鏡視下腎生検 | 17 |
| 移植腎抜去 | 1 |
| バスキュラーアクセス関連 | 196 |
| CAPDカテーテル関連 | 31 |
| ヘルニア根治術 | 1 |
| 尿管狭窄修復術 | 1 |
| デブリードマン | 1 |
| 合計 | 313 |

4) 死亡症例

1例

5) カンファレンス

- * 火曜日、木曜日：症例カンファレンス
- * 火曜日、水曜日：移植関連のカンファレンス、抄読会
(免疫抑制療法、移植腎病理等)

4. その他、来年の目標

- 1) 腎臓センターの診療内容を透析施設、透析患者に対して広く情報提供し、県内外からの患者の増加を図る。
- 2) バスキュラーアクセス、ペリトネアルアクセス関連手術を行える専門外科医の育成に努める。
増加する腎移植希望者に対応するため、スタッフ、専門医、コーディネーターの増員と育成に取り組む。
- 3) 地域における腎不全治療レベル向上のため、献腎移植の推進に取り組む。栃木県臓器移植推進協会、栃木県移植コーディネーターと協力し、献腎増加のための一層の活躍と啓発を進める。
- 4) 腎移植外来の円滑な運営を図る。
- 5) 腎移植長期生着のための研究を進める。
- 6) 腎臓、上部尿路手術における低侵襲手技(鏡視下手術)のさらなる改良と開発。